

令和5年度第1回 大竹市総合戦略推進会議・会議録

と き 令和5年11月6日（月）18：50～20：10

ところ 大竹市役所 3階大会議室

出席者氏名（敬称略）

委員（7名） 金谷 信子（広島市立大学国際学部）
小川 浩司（株式会社広島銀行大竹支店）
前田 利祥（一般社団法人大竹青年会議所）
松宮 久雄（広島県地域政策局市町行財政課）
梶山 恵（連合広島大竹・廿日市地域協議会）
古市 雅之（元株式会社中国新聞社大竹支局）
高橋 央史（翔法務事務所・司法書士）

市（9名） 庁議構成員（市長除く）
副市長、教育長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、
建設部長、地籍調査担当部長、上下水道局長、消防長

次 第

- 開会挨拶
- 新委員、各委員紹介
- 「第2期大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和4年度評価」について
- その他

資 料

- ① 第2期大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和4年度評価一覧
- ② 第1期大竹市まちづくり基本計画実施計画 令和5年度総合戦略推進会議補助資料

記録は裏面から

※記録の中では、「大竹市総合戦略推進会議」を「推進会議」、「第2期大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を「第2期総合戦略」、と略称表記しています。

○市長挨拶

本日の推進会議では、第2期総合戦略の令和4年度の実績に対する評価をいただきます。

令和5年5月8日に新型コロナウイルスが5類へ移行し、現在のイベントの開催状況や人の往来などを見ると、急速にコロナ禍以前の日常に戻りつつあるように感じていますが、令和4年度はコロナ禍終息の兆しが見え、徐々に社会経済活動が回復傾向にありながらも、引き続き制限を受けた1年でした。

配布した資料の中で、各施策の評価指標について、市民の皆様を対象とした「幸せ実感まちづくりアンケート」を根拠とする項目がいくつかあります。コロナ禍という大変困難な状況で、行政として何をすべきか、何ができるか、前例のない中、手探りで最善を尽くしてきました。その一定の評価がアンケートの中に含まれているものと認識しています。

また、この数年間で生活の在り様は大きく変わりました。国を挙げてデジタル化が推進され、大竹市でも総合戦略の改訂が控えていますが、デジタルの力を活用した、地域の課題解決や魅力向上などの取組を盛り込むこととなっています。

これからも、世の中の動きを見極めながら大竹のまちが住みよい、住んでよかったと感じていただけるまちとなるよう、職員とともに知恵を絞ってまいります。

本日は、委員の皆様それぞれの立場で、豊富な経験と見識のもと、ご意見をいただく貴重な機会です。限られた時間ですが、活発な議論の場となりますよう、お願いいたします。

○金谷会長挨拶

本日は令和3年度から始まった第2期総合戦略について、令和4年度の実績に係る評価に対してご意見を伺います。本会議を通して今後の市の事業の実効性を高めることに繋がればと考えています。最後に意見を集約するような場ではありませんので、委員の皆様にはそれぞれの分野から幅広い視点で自由にご発言ください。

○資料について

事務局から、配布資料の見方等について説明

○第2期総合戦略の令和4年度評価について

【事務局】

令和2年度、令和3年度はコロナ禍により、さまざまなイベントが中止となり、人の動きが制限されたことが指標に大きく影響していたが、令和4年度は、全体的に改善傾向にあった。イベントの参加者や講座の開催件数を指標にしたものは増加しており、幸せ実感まちづくりアンケートの回答を指標とする項目は、多くが目標を達成している。

これは、コロナ禍が終息に向かい、制限が緩和されたことだけでなく、再編交付金基金事業等による子育て支援策の充実や、美術館、ホテル、小売店など新規企業立地による雇用の場の創出、大竹駅や道路、公園整備などハード面の充実など、コロナ対策に取り組みながらも市民の皆様の満足感につながる取組を実施できたことが評価されたものと考えている。

■質疑応答

○まち1-4 ・人材不足の影響で中止となった大竹駅伝大会の人材確保策を伺う。
(古市委員)

【教育長】

中止となった大竹駅伝について、ボランティアの人材確保策として関係団体である体育連盟や大手企業へ理解を得て募集をかけ、参加チームの中からも役員として何名か出してもらうなど幅広く依頼をした。しかし、人材を何とか確保しながらも、近年のイベント開催における危機管理の視点から、路上警備にはボランティアではなく警備員を配置する必要があるなど、これまでのようにボランティアの人数を確保するだけでは安全に大会が開催できないことを警察と協議する中で認識した。このことから大会のあり方や手法を根本的に見直して、今後の開催について検討するという結論になった。

○まち3-1 ・大竹駅周辺整備事業について、自由通路開通の影響はどうか。周辺
(古市委員) 地域をより賑わいのある魅力的な地域となるよう、どう取り組むか。
(小川委員) 今後の周辺エリアの事業計画はあるか。
・小方地区のまちづくり事業について、人口増や来訪者増の契機となる
ような取り組みを期待するが、現状と今後の事業の進め方を伺う。
・下瀬美術館開館の効果はいかがか。

【建設部長】

自由通路開通の影響として栄町地区や周辺地区からのアクセスが良好となり利便性が向上したこと、車両の往来が東西に分散されたことにより交通事故や踏切事故のリスクが減少したこと、エレベーター設置等によるバリアフリー化の実現、開業前からの影響として、商業施設や分譲マンション、分譲宅地の立地等による賑わいが生まれたことなどが挙げられる。

駅周辺の賑わいの創出としては、駅西口に約 1,000 m²の交流広場を整備する予定で、市民参加のワークショップにより意見を取りまとめた。

今後の計画としては駅西口の駐輪場周辺についても整備を計画している。駅西口広場から山側にかけての都市計画道路の延長も計画している。東口周辺については道路側溝に蓋をし、道路幅員の拡幅を検討している。

【総務部長】

小方地区のまちづくり事業は、平成 29 年 3 月に小方地区のまちづくり基本構想を策定し、子育て支援センターを併設したこども園の開園、企業誘致の促進として位置づけた用地への下瀬美術館の開館、晴海臨海公園の継続した整備などを実施している。

令和 4 年 9 月に基本構想の見直し等を行っており、引き続き構想に基づいて事業を実施予定で、具体的な事案は現在検討中である。

にぎわいのある地域づくりの視点として、用途地域の変更手続きにより土地活用の幅を広げたり、プロポーザル方式の活用や地区計画の作成による条件設定をしたりすることで方向性がぶれないように取り組みたい。

下瀬美術館は令和 5 年 3 月 1 日に開館した民間施設で、3 月から 9 月までの 7 ヶ月間で入場者

は約5万6000人である。入場者の96%は市外の方であり、多くの方に大竹市を知っていただき、訪れていただくきっかけになっていると感じている。雇用面でも良い影響があると考えている。

【小川委員】

大竹駅周辺整備事業について、多くの出店者が集まり賑わいのある地域となるような事業計画を期待する。

小方地区のまちづくり事業について、宮島や岩国方面から集客を見込めるよう計画してほしい。

【前田委員】

駅前地域の道路側溝等の整備について、東口周辺の交差点等に見通しが悪い箇所があり、交通安全に配慮した整備計画をお願いする。

【梶山委員】

小方地区のまちづくり事業について、晴海臨海公園を例にしても小学校低学年までの小さい子供を持つ家庭にとっては充実した環境と感じるが、小学生高学年以上の世代にとっては物足りない面がある。アクティブな施設の整備等、幅広い世代に向けた魅力向上のための施策を期待する。

【古市委員】

大竹駅周辺整備事業について、東側と西側のそれぞれの地域が発展するよう計画してほしい。

小方地区のまちづくり事業について、JRとの交渉など時間を要することが多いと思われるが、まちの発展に大きく寄与する大きな事業であるため、可能な限り速やかな事業の推進を期待する。

【金谷会長】

大竹駅周辺整備事業について、市民参画でワークショップを実施しているが、どんな方が関わり、どのようなアイデアがあったか。

【建設部長】

自治会関係者や商工会議所等、関係団体に声をかけて実施をしている。幅広い層の方が気軽に自発的に集まれる場所となるよう提案があり、イベントが開けるスペース等を確保する。

○まち3-7 (古市委員) (小川委員)	・上下水道の整備について、老朽化対策と計画通り更新をできない場合の対策や今後の計画はどのように考えているか。来年度の目標箇所はそのままか。また、AIを活用する他市の事例を参考にしているかどうか。
----------------------------	---

【上下水道局長】

毎年1%の更新を目指しているが、職員不足等により1%に達する発注もできていない。これまでは赤水や漏水の発生頻度が高い箇所を優先して整備していたが、今回の件を契機に、方針の見直しを検討している。来年度以降、長期的な計画を作成予定であるが、短期的には今回破損した箇所の前後の管の状況を現在調査中である。そこに問題が見つかれば対応し、問題がなければ古い管から点検を実施する。計画の完成までに今回と同様の事案が起こった場合に、どう対応するか、いかに被害を最小限に抑えるか等も考慮し、短期中期長期の視点で検討する。

来年度の計画箇所数については、今後予定する短期中期対策によって整備箇所数が変わる可能性があるが、現在のところ目標のとおりで考えている。

AIを活用した探査等の他市の取組について、今は管に音を録音する機械をつけて、漏水箇所を探す手法を導入している。衛星を活用した手法についても認識しており、来年度以降、幅広く情報を集め、大竹市に適したものを見極め、検討していきたい。

【古市委員】

先日の漏水について、復旧までに時間を要している。人員不足の影響もあるかもしれないが、事故を完全に防ぐことが難しい中で、早期に被害状況を把握する体制や、被害を最小限に抑える対策について、今回を教訓に備えてほしい。

○ひと 1-2 ・ジュニアリーダー育成事業について、市広報で募集する記事の内容が不明確のため、工夫してはどうか。
(前田委員)

【教育長】

ジュニアリーダー育成事業について、広報紙の掲載内容は記事の締切が掲載2か月前で、事業内容が決まる前に原稿を作成していたが、今後はスケジュール等を見直し、内容についてもわかりやすい記事となるよう検討する。

○ひと 5-2 ・子育てを支える体制である保育所の再編状況について伺う。
(古市委員)

【健康福祉部長】

保育所の再編は、平成30年12月に策定した大竹市公立保育所等再編基本方針に沿って実施している。令和4年度からは、なかはま保育所と立戸保育所を統合し市役所敷地内に小方認定こども園を開園した。現在は大竹地区の再編に取り組んでおり、令和6年度から大竹保育所と本町保育所を統合し、定数も50人以上減らす予定。ただし、改修後の園舎での保育は令和8年2月頃からの見込みである。

○しごと 2-1 ・農林水産業の振興について、新規営農者確保のために市民農園や貸農園のような事業は実施しているか。
(古市委員)
・漁獲量が増えている理由は何か。

【総務部長】

市民農園や貸農園のいずれも実施していない。一般的には利用者の多くは都市部の住民の方であると認識している。そのため、本格的な営農よりも趣味の一環として農業に関わるような色合いが濃いものと考えており、新規営農につながるかどうかの判断は難しい。

海面漁業漁獲量は主にカタクチイワシの漁獲量に左右されると認識している。年によって大きく増減する傾向があるため、気候など外的要因によるものと考えられる。

【高橋委員】

農地を相続して対応に苦慮する方が多い。宅地であれば業者が仲介しており、手数料が高いため民間の力も働きやすい。農地について行政が窓口となるような仕組みがあれば、就農支援や市民サービス向上の取組として効果があるのではないかと考えている。農地法の改正で就農しやすくなっている。

【総務部長】

ご意見を参考に、今後研究していきたい。

○しごと2-2 ・原油価格等高騰対策支援事業について、来年度の実施予定はあるか。
(小川委員) また、電気代の高止まりに対し価格転嫁が不十分ではないか。

【総務部長】

市ではこれまで国からの交付金に市費を上乗せする形で、中小企業や個人事業者に対して燃料費の一部を支援する事業、あるいは市内の福祉関係事業者に対し、光熱費、燃料費、食材料費等の一部を補助する事業などを実施している。事業規模にもよるがすべて市単独で実施することは難しく、どうしても国からの交付金に依存することとなる。交付金は支援分野や用途、金額の上限等が指定される場合があり、次年度以降については、国からの通知に基づき、その都度適切な支援を行っていききたい。

【松宮委員】

原油価格等高騰対策について、先般、国が追加の経済対策を打ち出しており、今後の情報を注視し、適切な対応と準備をお願いしたい。

○その他 ・大竹市の人口動態について伺う。
(古市委員) ・岩国大竹道路整備事業の進捗状況について伺う。

【総務部長】

自然動態は、かつては大幅な出生超過であったが、平成11年以降出生者数を死亡者数が上回っている。一方で社会動態については、転出が転入を上回っている状況が続いている。

国立社会保障人口問題研究所の推計値を元に、市では大竹市人口ビジョンを平成27年10月に策定しているが、令和2年の数値については、目標値を国勢調査の実績値がわずかに上回っている。人口減少に対するまちづくり施策等の成果が現れているものと感じている。

【建設部長】

岩国大竹道路は平成13年度から事業着手を行っており用地の取得率は山口県側で99%、広島県側で89%、全体で97%が完了しており、計画通りの執行状況である。

建設工事としては小方地区や御園地区で橋脚工事が、国道2号線では電線の地中化工事が順調に進んでいる。トンネル工事も岩国側では令和3年度に着手している。

○まとめ

【古市委員】

人口動態をみても推計よりも良い状況となっているのは各種施策の積み重ねによるものだと思う。大竹駅周辺地区の整備や小方地区のまちづくり事業など、まちの活性化につながる大きな事業を今後も控えているが着実に取り組んでいただきたい。

【金谷会長】

小方認定こども園や大竹駅、晴海地区など、毎年着実に新たな実績を積み重ね、市の様子も少しずつ良い方に変わっている。これからもチャレンジしていただきたい。